

非破壊検査、コンクリート調査などを手掛けるアイベック（富山市）の非破壊検査部係長の水落香織さん（46）は、夫と高校生の長女、中学生の長男と4人暮らし。子どもたちは手が掛からなくなったが、共働きで仕事を終えて家に帰ってから食事の準備や掃除、洗濯…。一息付けるのは深夜になってからだ。

午後11時から資格勉強

同社では今年度から、社員に資格取得を促す自己啓発支援制度を創設した。水落さんも試験に向けて勉強したが、勉強を始

「休みやすさ」大事

めるのが午後11時ごろになる日も。「いまは男性が家事を手伝うのは当たり前。でも、やっぱり女性の仕事って固定観念がありますよね。男性はあくまで「手伝う」なんです」と指摘する。

現場の人員配置など、管理側の仕事もするようになると、男女の「聖域」を感じることもあるという。「現場は男性の仕事ってイメージがある。やはり女性は入りづらい」。それでも現場見学など、女性が現場を知る機会を増やすようになってきた。「まずは互いの仕事を『聖域化』せず、理解し合うことからですかね」と話す。

会社は1時間単位で有給を取ることができ、時間有給制度を設けた。子どもの迎えや行事、



打ち合わせをする水落さん＝富山市内



富山信金婦中支店に勤める田財さん＝富山市内

働く女性の思い 時間有給制度を活用

語った。少子高齢化が進む中、女性活躍推進や子育て支援の取り組みは衆院選の争点の一つだ。富山信金婦中支店の田財知恵さん（31）は今年4月に主事となった。人事からの推薦で県の女性リーダー塾を受講している



病院に行ったりと、働きやすさにつながっている。「まずは働きやすさ、休みやすさが大事だと思う」と

コースを設けるなど対策を進める。食洗機購入に助成を富山信金婦中支店の田財知恵さん（31）は今年4月に主事となった。人事からの推薦で県の女性リーダー塾を受講している

さらにバリバリ働くキャリアウーマンの「バリキャリア」と、趣味や交友関係を大切にしながらマイペースに働く「ゆるキャリア」の間があってもいいと指摘。「いまはみんながバリキャリアを目指すべきという空気を感ずる」と言う。

茶道が趣味で、1十関連の会社に勤める夫と暮らす田財さん。国や県に求めることを尋ねると「食洗機やお掃除ロボ、自動調理鍋を買ったのに助成金があると嬉しい。家事は2の飲みたいになっているからタンナに申し訳ない」と笑った。

国や県、市町村は働く女性はキャリアアップをこ肩肘張らず、身近な悩みに手当てをし、自分の個性を生かしながら、のびのびと仕事ができる環境を整えることが大切なのかもしれない。（おわり）

が「ポジションにこだわらず、自分ができることをやりたい。肩書に縛られたくない」ときっぱり語る。